

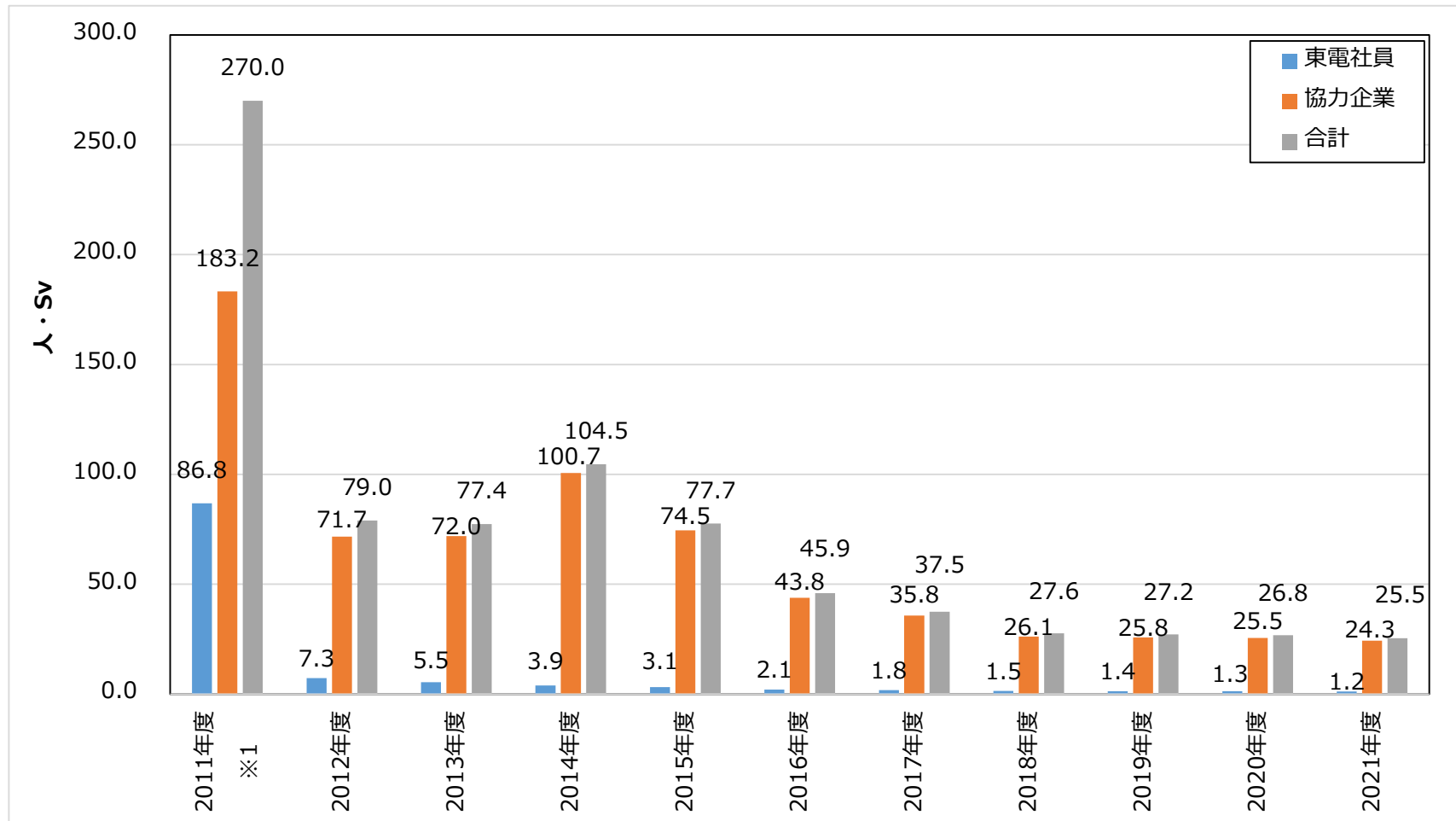
福島第一原子力発電所 従事者の被ばく線量全体概況について

2022年6月3日

東京電力ホールディングス株式会社

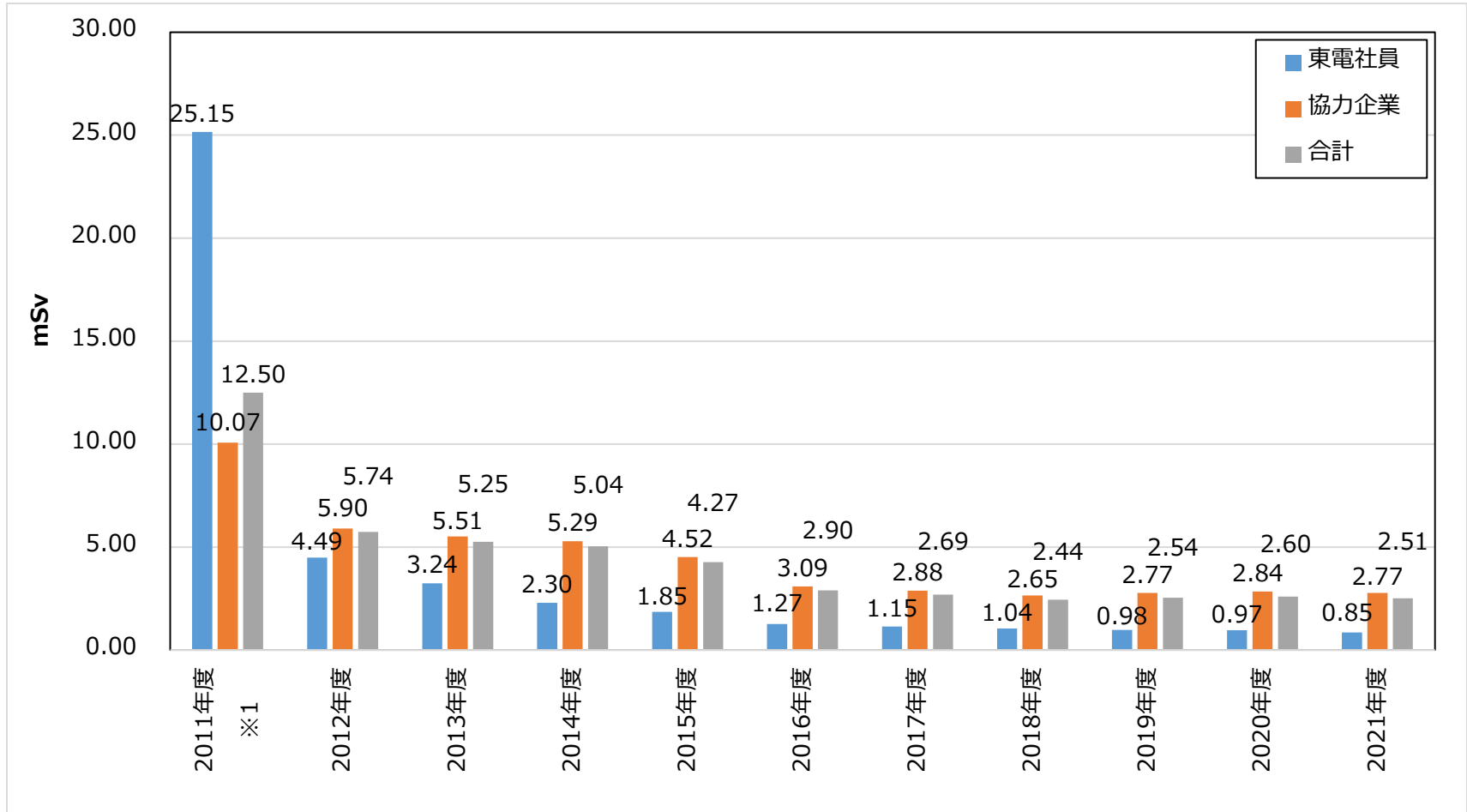
①発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（総実効線量）

■ 総実効線量は年々低下しているものの、前年とほぼ同等で推移している。



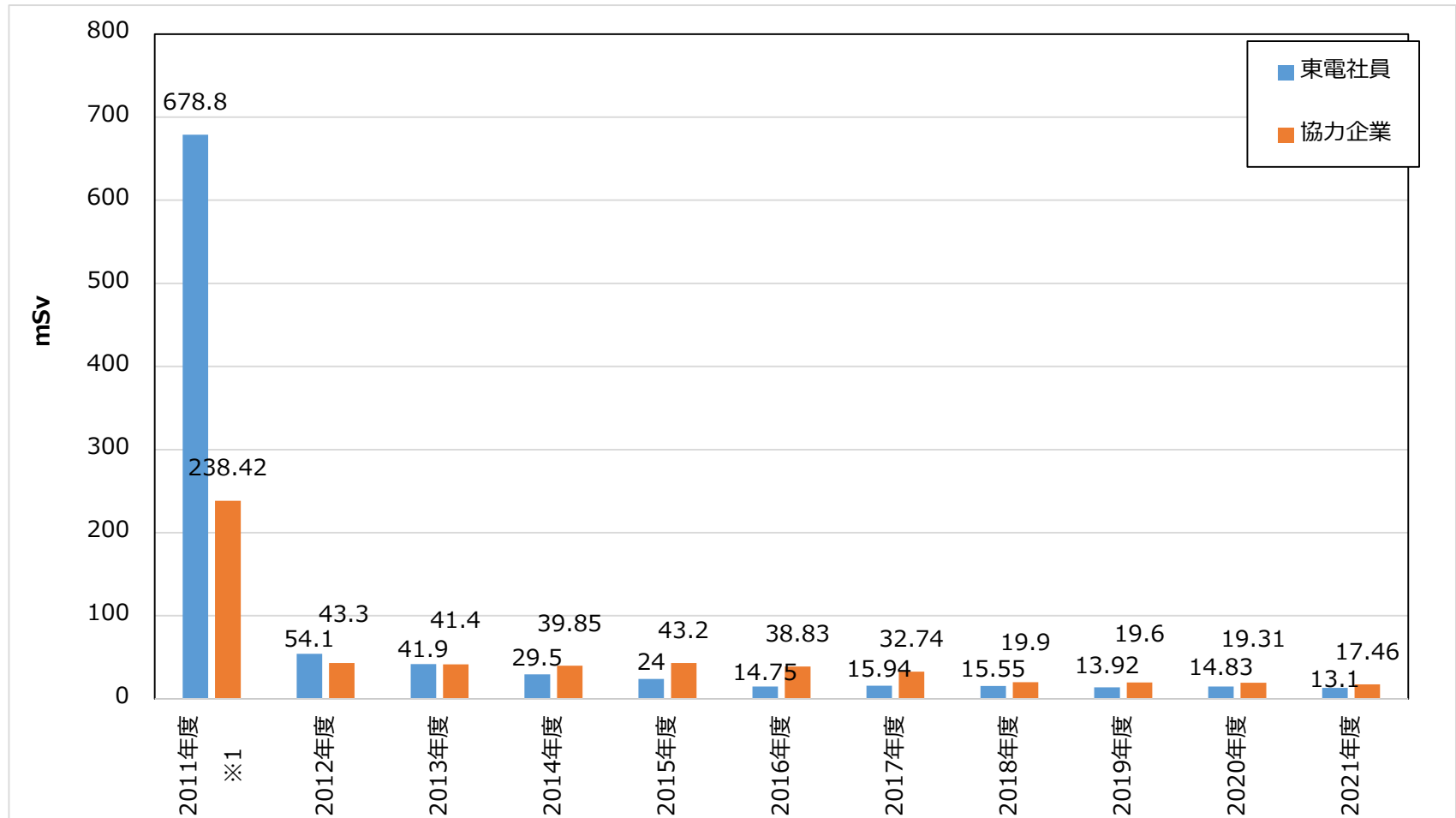
※1：2011年度は2011年3月を含む

②発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（平均線量）



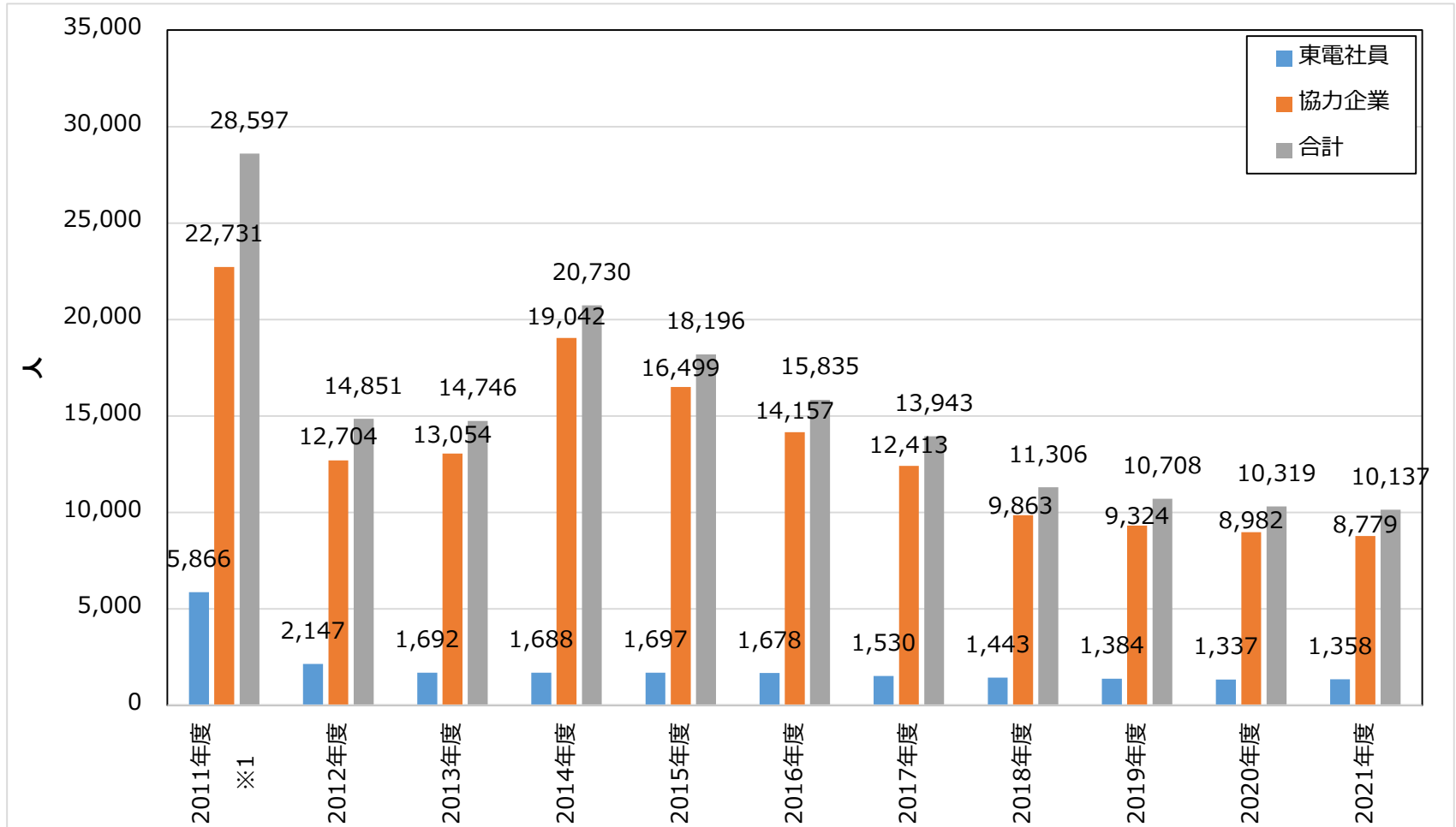
※1：2011年度は2011年3月を含む

③発災以降の年度別外部被ばく線量の低減状況（最大線量）



※1：2011年度は2011年3月を含む

④ 発災以降の年度別放射線業務従事者数



※1：2011年度は2011年3月を含む

⑤放射線業務従事者の累積外部被ばく線量 2021年度分

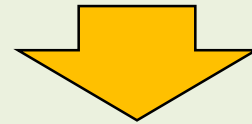
区分(mSv)	2021.4月～2022.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	7	836	843
5超え～10以下	59	925	984
1超え～5以下	209	2,247	2,456
1以下	1,083	4,771	5,854
計	1,358	8,779	10,137
最大(mSv)	13.10	17.46	17.46
平均(mSv)	0.85	2.77	2.51

○2021年度（2021.4月～2022.3月）に作業実績のある10,137名のうち

10,137名（100%）は50mSv以下

10,137名（100%）は20mSv以下

8,310名（82.0%）は5mSv以下



○全ての作業者について被ばく線量は線量限度内(50mSv/年)で管理。

○2011.10月以降、有意な内部取り込みは認められていない。

⑥2021年4月1日を始期とする5年間の累積外部被ばく線量

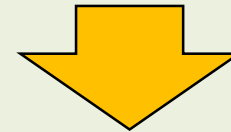
区分(mSv)	2021.4月～2022.3月		
	東電社員	協力企業	計
100超え	0	0	0
75超え～100以下	0	0	0
50超え～75以下	0	0	0
20超え～50以下	0	0	0
10超え～20以下	7	836	843
5超え～10以下	59	925	984
1超え～5以下	209	2,247	2,456
1以下	1,083	4,771	5,854
計	1,358	8,779	10,137
最大(mSv)	13.10	17.46	17.46
平均(mSv)	0.85	2.77	2.51

○2021.4～2022.3に作業実績のある10,137名のうち

10,137名 (100%) は100mSv以下

10,137名 (100%) は50mSv以下

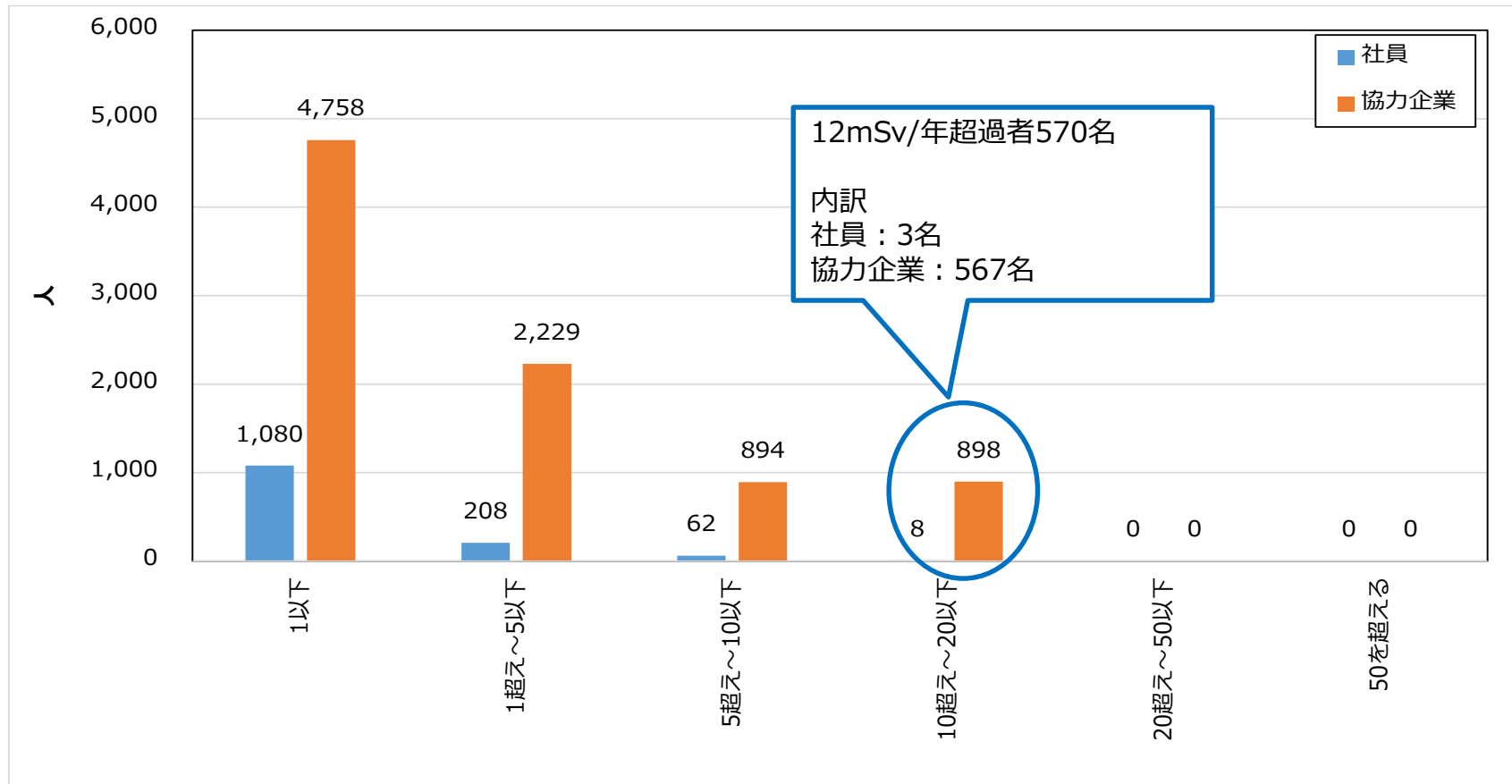
10,137名 (100%) は20mSv以下



○全ての作業者の被ばく線量については、100mSv/5年の線量限度を超えないよう、発電所では80mSv/5年の管理をしている。

⑦眼の水晶体 累積等価線量分布（2021年度）

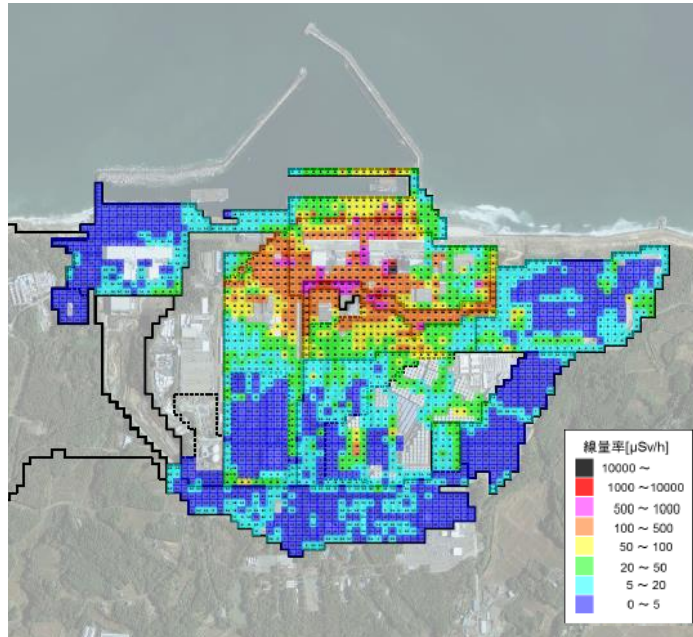
- 2021年度の眼の水晶体の最大線量は、17.90mSv
- 眼の水晶体の等価線量が12mSv/年を超える作業を計画した段階、または超えたことが確認された段階で、眼の水晶体の等価線量を、眼の水晶体近傍（又は頭頸部）での測定を開始をする。



⑧環境線量率の低下

- 構内の環境改善によって、構内全域にわたって環境線量率が低下している。
2021年度時点で、構内の約96%が全面マスク着用を不要とするエリアとなっている。

2014年度



※ 空白部分は未測定エリア

2021年度

